

## 児童自立支援施設における自立支援とはなにか ー施設入所経験者のライフストーリーを手がかりにー

○ 関西学院大学 石田 龍太 (010422)

キーワード：児童自立支援施設 自立支援 ライフストーリー

### 1. 研究目的

児童自立支援施設は児童福祉施設の一つであり、不良行為をなし、またはなすおそれのある児童及び家庭環境その他の環境上の理由により生活指導等を要する児童に対して、個々の児童の状況に応じて必要な指導を行い、その自立を支援し、あわせて退所者について相談等の援助を行うことを目的とする施設である。児童自立支援施設における自立支援について、児童自立支援施設運営指針の中で、安定した生活環境を整えること、児童の主体性を尊重して、生活指導、学習指導、職業指導及び家庭環境の調整を行うことなどと明記されているが、児童自立支援施設退所者は高校中退率や離職率が高く、特に施設退所から半年の間に高校中退または退職になるケースが多いことが示されている（東京都福祉保健局 2005）。このように児童自立支援施設退所者が困難に直面するという課題が認識されているものの、児童自立支援施設入所経験者の生活実態を明らかにした研究はほとんどない。上記のことから本研究は、児童自立支援施設入所経験者のライフストーリーを手がかりとして児童自立支援施設における自立支援とはなにかを検討することを目的とする。

### 2. 研究の視点および方法

2023年7月から9月の期間に、児童自立支援施設に1年以上入所しており、20歳以上である8名の児童自立支援施設退所者を対象に半構造化インタビューを実施した。研究参加者の選定は、A県X市にあるY児童自立支援施設の職員に協力を依頼し、本研究の目的と研究参加者の対象となる条件を伝え、本人から協力の同意が得られた方を対象とした。インタビューで得られた語りをデータとして佐藤(2008)の質的データ分析法を基に質的データ分析ソフトMAXQDA Plus 2024. を用いて分析を行なった。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、関西学院大学「人を対象とする行動学系研究倫理委員会」の承認を得て実施した(受付番号：2023-20)。一対一のインタビューを実施するにあたり、調査依頼文書を作成し、調査で得られた情報等については個人が特定できないように配慮すること、参加の辞退、中断、中止はいかなる時でも参加者の意志が尊重されること、調査結果は、専門の学会や学会誌に報告する可能性があることを明記して説明した上で、書面にて同意を得た。また、本研究に関連して開示すべきCOI関係にある企業等はない。

### 4. 研究結果

研究参加者が児童自立支援施設に入所した背景として、家族や児童養護施設職員との関

係悪化、被虐待経験などがあり、その環境から離れ児童自立支援施設の〈安心・安全な環境での生活〉を送ることが、生活の安定につながっていた。また、施設職員や教員、心理療法担当職員、他の入所児童などの〈自分のことを受け入れてくれる存在〉によって、自分の感情を表出することや人間関係の構築につながっていた。

〈なにかを成し遂げる経験をする事〉として、児童自立支援施設での部活動や体育祭、少人数での授業などを通じて成功体験を積み重ねることが、施設退所後の自信となることが語られた。また、研究参加者から目標を持たず、施設を退所するために高校に進学したことで高校進学後に目標がなくなり高校を退学したことが語られ、施設退所までに〈将来の夢や希望を持つこと〉が重要な要素として示された。

研究参加者の多くは中学校卒業と同時に施設を退所し家庭復帰しているが、親と離れて生活したり、できるだけ顔を合わさないように遠くの学校に通ったりするなど、〈家族との適当な距離を模索すること〉が語られた。また、施設を退所し、高校に入学するという2つの大きな環境の変化が訪れることに対して、施設では環境が整っているが一般社会ではその環境がないため、環境の違いで苦労したと研究参加者は語った。そして、その違いを認識し、様々な経験を通じて〈施設入所経験を施設退所後の人生に統合すること〉が重要な要素として示された。

## 5. 考察

本研究で示された自立に関する要素のうち、〈家族との適当な距離を模索すること〉、〈施設入所経験を施設退所後の人生に統合すること〉は、児童自立支援施設特有の要素として示された。これは、児童自立支援施設が、「枠のある生活」を支援の基本とし、多くの児童が中学校卒業と同時に施設を退所し、家庭に復帰するという特徴に起因していると考えられる。これらの結果から、インケアでは〈安心・安全な環境での生活〉、〈自分のことを受け入れてくれる存在〉としての関わり、〈なにかを成し遂げる経験をする事〉、〈将来の夢や希望を持つこと〉、インケアからリービングケア、アフターケアにかけて、家庭関係の調整や、施設退所後の生活を見据えた自立支援の重要性が示唆された。

## 付記

本研究は、著者が2024年に関西学院大学大学院人間福祉研究科へ提出した修士論文の一部を加筆・修正したものである。

### (参考文献)

佐藤郁哉 (2008)『質的データ分析法——原理・方法・実践』新曜社。

東京都福祉保健局 (2005)「東京の児童相談所における非行相談と児童自立支援施設の現状—子どもの健全育成と立ち直り支援の取り組み—」。